



取れたはずだったのに

スポーツ系の部活はいよいよ総体が始まります。その時に野球でもサッカーでも、肝心なところで「あのボールは捕れたはずだった。」「あのゴールは決めたはずだった。」と後悔しないよう、日頃の練習の成果を見せてください。

中3の英語でifを使う仮定法を少し習うようになりましたが、高校では接続詞のifと仮定法過去のifと仮定法過去完了のifの使い分けをしなければなりません。その時、仮定法過去完了は「あのときには起きなかった事実だが、仮に起きていたとしたら……」というように後で悔やむ場面だからと説明するとわかってもらえます。後悔を一度しないと実感できないこともあるでしょう。さらっと受け流してしまっただけで同じ場面で同じことをしてしまうかもしれません。

今回の中間テストを例にとると中3の社会では完全解答の問題が増えています。「これはわかった大丈夫！」と書いていても、一つでもあいまいなものがあってそれを間違えたなら、それで一問まるごと×になります。また“指定された2語を使って説明せよ”というような記述問題も定番になってきました。とにかく言葉をつなげて書いておいたから〇と書いていても、原因と結果の説明があいまいだったり、主語と述語が合っていない不完全な文だったりすれば点はもらえません。テストが終わった直後にはそんなに難しい問題とは思わなかったのに、返却された解答用紙を見て「もっと取れていたつもりだったのに…」と凹む訳です。中2の英語では教科書の本文以外の英文も出てくるようになりました。テスト直前までは「本文覚えて、ワークもやったからできるはず」だったのに、いざ問題用紙を見て「こんな英文初めて見るよ、どうしよう…」となります。

これらの傾向は新しい学習指導要領を受けての変化だと思えます。全国的にも定期テストが難化しているという情報があります。この傾向はこれからもしばらく続きそうなので、フワッとした勉強のしかたを変えていかなければ解決できそうにありません。もう1歩踏み込んで考え、そして理解するという習慣をつけましょう！